様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 ２８ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０３１０７

研究課題名（和文）北米大陸史枠組み構築のための1812年戦争研究：双方向的把握の試み

研究課題名（英文）Toward a Continental Perpsective: A Transnational Approach to the War of 1812

研究代表者
橋川　健竜（Hashikawa, Kenryu）

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：３０３６１４０５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：　1812年戦争を題材にアメリカ史とカナダ史両方の研究史を学び、北米大陸史を構想することをめざした。実証作業として、マイケル・スミス『アッパーカナダ植民地地理概観』（計6版、1813年～1816年）について掘り下げた。同書はアメリカ人にカナダへの移住を促す目的で著された地理書で、カナダ史の重要資料である。
　だが加筆が目立つ同書第4版について、その読者と目されるヴァージニア州のバプティスト社会を調べる必要が判明し、同州の地域史文献と資料を入手する間に期限を迎えた。今後もスミスの地理書に関する調査を行うとともに、一定量の文献を読破した初期カナダ史について、研究動向を踏まえて研究を継続する。

研究成果の学術的意義や社会的意義
アメリカ合衆国史のみに偏りがちな北アメリカ史の研究を具体的な形で拡大する第一歩として、メキシコ以上に素通りされがちなカナダの側から、アメリカ史を照らす視座を持ち込むことができた。資料を選べば、少なくとも1815年までについては、カナダ史とアメリカ史を同時に並べるにとどまらず、一体的に論じることが可能であることを示せた。脱一国史的な発想と構想から、戦争を戦う対立勢力をまたぐ議論を打ちだす可能性も示すことができた。

研究成果の概要（英文）：　This Project sought to envision a continental perspective of the War of 1812 (1812-1815) by paying equal attention to both U.S. and Canadian historiographies on the war. In order to unite the two perspetives, the projet focused on A Geographical View of the Province of Upper Canada, written and published by Michael Smith, a late loyalist. This is a book of places, topography and climate for prospective immigrants to the Province of Upper Canada from the U.S. There does not exist any other book of subtantial content about early Canada by a former U.S. citizen.
　The project stopped short of its goal due to the need to look into the history of the state of Virginia and its Baptist community, which funded the publication of the fourth edition of Smith's geography book. The project now needs to be pursued in a bifurcated way, one a continued research on Smith and his geography books, the other on an further exploration of Canadian historiography for periods after 1815.

研究分野：アメリカ史

キーワード：北アメリカ大陸　カナダ　アメリカ合衆国　1812年戦争

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

（１）研究代表者は以前の研究で 1810 年代のアメリカ社会を取り上げたことがあるが、そこでは当時起きていた 1812 年戦争（1812 年～15 年）の影がまったく感じられず、のちになって奇異の感を覚えた。またアメリカ合衆国史の側から語られるこの戦争には、明らかにカナダやイギリスなどの観点が欠落していることにも気がついた。

（２）他方、植民地時代史の研究では、フランス領北アメリカ植民地についての論考が英語圏の学術誌で数多く取り上げられ、初期カナダ史はアメリカ史研究者も知っておくべき分野と認められるようになりつつあった。アメリカ合衆国の成立後に関する研究についても、同じことがある程度起こってよいのではないかと考えられた。

２．研究の目的

（１）西洋史研究における「一国史観」は、アメリカ史の場合は「例外主義」とも結びつき、研究者の発想を特に強く拘束している。これを克服する方法を、18 世紀後半～19 世紀アメリカ史について探る。近隣諸国の観点をはじめから取り込むようなアプローチを開拓することが、この目的の達成に通じうると考え、カナダ史を参照することでアメリカ史研究を拡充する。

（２）カナダ史の基礎知識と研究動向の理解がアメリカ史研究に活用できることを示すにとどまらず、アメリカ史研究を超えた空間設定や課題設定を行う北米大陸史的なアプローチの有効性を示し、研究を活性化する。

３．研究の方法

切り口として、敵国側の見地についての理解も必要となる「戦争」を取り上げることとし、1812 年戦争を事例にする。この戦争ではアメリカとカナダの国境地域が主要な戦場の一つだったので、これを題材に選ぶことによって、本研究の問題関心につながるカナダ史文献の同定が容易になる。そのため本研究では第一に、1812 年戦争にかんするカナダ史の主要な研究雑誌および重要な研究書を収集してこれを読解する。第二に、アメリカとカナダにまたがる一次資料を用いて、アメリカ史とカナダ史の文献を十分に参照し、この戦争について一国史では論じきれない課題を扱う実証研究を行う。この作業を通じて、カナダ史とアメリカ史の両方に開いた大陸史的な 1812 年戦争研究の実例を作る。

４．研究成果

（１）1812 年戦争とそれ以前の時代を扱うカナダ史の研究文献を複数通読していくなかで、本研究の実証作業に適した一次資料として、マイケル・スミス『アッパーカナダ植民地地理概観』（1813 年）という同時代の地理書を発見した。スミスはアメリカ生まれで、土地を求めて 1800 年代にアメリカ西部ではなくカナダに移住した「後期ロイヤリスト」である。アッパーカナダ植民地を高く評価した彼は、戦争前夜、アメリカ人に向けてカナダへの移住を促そうと同書を準備していた。その後スミスは戦争中にアメリカに帰国し、生計を立てるためにアメリカ各地で繰り返し同書を刊行した。同書の第 1 版は、戦争前と戦争開始後の原稿が並ぶという特徴があり、本研究にとっては特に興味深い。著者スミスが国家・国民というものやイギリス領北アメリカ植民地に向けた目線に、戦争がどのような変化を及ぼしたかを教えてくれる、格好の材料である。そしてこの資料はカナダ史ではよく知られるが、アメリカ史研究者にはほとんど知られていない。アメリカ史文献・カナダ史文献両方を参照しながらスミスの地理書を紹介することは、そのまま、1812 年戦争を米加両方の見地から同時に論じることになる。

（２）この観点から、同書を詳しく紹介する 2 部構成の研究ノートを執筆することを構想した。スミスの書籍は地理および政治制度を扱った部分と、1812 年戦争初期の戦闘の最前線となった地域で半年間暮らした体験記からできていて、両者の間には書籍の性格そのものを変化させるような差異がある。地理の部分はアッパーカナダ南西部を中心に取り上げて、カナダとしては最も温暖な気候と、農業に向いた土壌、また人口が少なく、条件の良い土地を手ごろな規模で、手数料のみの負担で手に入れられることを強調する。アメリカ人に向けて移住を勧める意図が明確であり、さらにイギリス国王を称賛する言辞も残る。アメリカ革命の精神を代弁してイギリスの政治制度や社会を忌避する意図は、1812 年以前のアメリカ人移住者には希薄だったこと、また移住を検討する読者も同じ考え方を共有するものとスミスが想定していたことが、はっきり見て取れる。残念なことに、カナダの政治制度を紹介する章は開戦後に書かれ、記述が圧縮されていて、アメリカ人に向けてイギリス植民地の政治制度をどう肯定的に論じたかは、やや論じにくい。むしろそれをアメリカの制度になるべく近いものとして提示しようという意図がみられ、開戦後のスミスが執筆戦略を切り替えようと苦労していることを読み取れる。そして戦争の体験記では、開戦当初、アメリカ側が勝つものとアッパーカナダ住民が想定していたことを強調し

つつ、アメリカ側の戦略の不適切さを厳しく指摘している。ここにはアメリカ軍への批判も見て取ることができ、スミスがアメリカ人読者を想定しつつ、自身の忠誠心をどこに置くべきか、いくばくかの混乱を見せながら探っていることをうかがい知ることができる。また、先住民の戦争への参加をめぐっては、アメリカではイギリス軍が金銭によって先住民を戦闘へとたきつけているという説が流布していたが、スミスは実見を紹介するとして、これとは食い違う内容を記している。スミスがアメリカ側にすり寄ろうとしていない記述として、注目に値する。以上の内容を主とする前半部分を、代表者が勤務する研究センターの紀要『アメリカ太平洋研究』19 号（2019 年 3 月）に刊行した。なお、アッパーカナダの民兵がイギリス正規軍による動員指示にどう対応したかを扱う部分、またイギリス軍指揮官アイザック・ブロックの布告の内容など、スミスの記述には同時代の文民として実態を把握できなかった箇所や、記憶の誤りがあり、これらの個所については慎重に扱うべきであることも、この戦争にかんするカナダ側の研究も参照して指摘した。

（３）これを踏まえて、2 部構成の研究ノートのうち後半部分のアイディアを、初期アメリカ学会の第 79 回例会（2019 年 4 月 13 日）において報告した。スミスの書籍の第 2 版から最終の第 6 版までとりあげて、加筆や構成の変化を分析するのが主な内容である。だがその準備作業の中で、特に加筆が多く、タイトルが『イギリス領北アメリカ植民地地理概観』に変更された第 4 版については、スミスの著述の目的そのものが大きく変化していることが明確になった。移住を勧める意図が失われ、純然とカナダを紹介することに、目的が移動しているのである。この変化の理由は複数考えられるが、これを考察するにあたり、米加史の統合や大陸史とはつながらない要因にも留意せざるをえないことが判明した。具体的には、同書の出版はヴァージニア州のバプティスト社会という、きわめて限定的な集団の購読予約によって可能になったことである。スミスはアメリカへの帰国だけでなく、地域的・文化的に限定されたこの集団が読者であるという特殊な要因にも影響されて、書籍の構成や中身を変えた可能性が浮上したのである。これは 1812 年戦争研究というよりも地域レベルの宗教社会史の問題であるが、これを避けて通ることは難しいと判断し、ヴァージニア州の地域史に関する文献の収集を始めた。そのため、予定していた研究ノートの後半を研究期間内に完成させられなかったことは残念である（新型コロナウイルスの感染拡大のため、調査のための海外渡航も見送った）。この課題は研究期間の終了後も調査を続けて、完成させる予定である。さらに、スミスの書籍の第 3 版が比較的に名の通ったフィラデルフィアの出版社から刊行された経緯は、第 4 版が限定的な読者層向けに予約購読形式で刊行されたことと対比をなすので、本国の資料館に関係資料が残存していないか、海外渡航が容易になった際には調査したい。加えて、本研究の本来の目的であるカナダ史とアメリカ史の接合、北米大陸史の構想構築についても、そのための研究を継続する意義は十分にあると判断した。今後もカナダ史に関する文献調査を継続する。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 橋川健竜	４．巻 19
２．論文標題 元後期ロイヤリストがアメリカで描くアッパーカナダ植民地と1812年戦争（1）	５．発行年 2019年
３．雑誌名 アメリカ太平洋研究	６．最初と最後の頁 49、64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 橋川健竜	４．巻 30
２．論文標題 「世界像」検討のおもしろさ――『世界史の世界史』論評	５．発行年 2017年
３．雑誌名 世界史研究所ニューズレター	６．最初と最後の頁 6，10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 橋川健竜	４．巻 18-1
２．論文標題 センタープロジェクト紹介「北米大陸史枠組み構築のための1812年戦争研究」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 CPAS Newsletter	６．最初と最後の頁 9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 橋川健竜	４．巻 18-2
２．論文標題 センタープロジェクト紹介「北米大陸史枠組み構築のための1812年戦争研究」	５．発行年 2018年
３．雑誌名 CPAS Newsletter	６．最初と最後の頁 7，8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 橋川健竜
2．発表標題 元･後期ロイヤリストがアメリカで振り返る1812年戦争とアッパーカナダ植民地
3．学会等名 初期アメリカ学会
4．発表年 2019年

1．発表者名 橋川健竜
2．発表標題 書評『「世界史」の世界史』
3．学会等名 世界史研究所・合評会
4．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

東京大学アメリカ太平洋地域研究センター www.c.u-tokyo.ac.jp/cpas 東京大学大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター www.cpas.c.u-tokyo.ac.jp

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考